

第4回 都心三宮再整備推進会議

会議録

平成30年9月18日



## 第4回 都心三宮再整備推進会議

1. 日 時 平成30年9月18日(火) 9:30~11:00

2. 場 所 神戸市役所1号館14階 大会議室

3. 出席者 委員31名、オブザーバー4名(敬称略)

・地元組織代表

浅 木 隆 子	東 義 勝
清 水 俊 博	原 田 比呂志
古 川 勝	松 岡 辰 弥
三 浦 繁 男	森 本 真 弥
松 下 秀 司	

・市民代表

岩 佐 光一朗	玉 田 はる代(代理:森田)
---------	----------------

・交通事業者代表

奥 野 雅 弘	中 村 聡
早 川 泰 正(代理:小山内)	原 田 大
山 川 浩 司	長 尾 真
吉 川 紀 興	

・経済界

植 村 武 雄	高 島 章 光
松 田 茂 樹	

・学識経験者

加 藤 恵 正	小 浦 久 子
末 包 伸 吾	

・行政機関

粟 津 誠 一	日 野 雅 仁
横 山 大 輔	原 辰 幸
山 岸 齐	飯 塚 功 一(代理:澤田)
廣 田 俊 彦(代理:正垣)	

・オブザーバー

阪 本 浩 之	多 田 初(代理:井上)
城 垣 敦 夫(代理:福島)	増 田 稔(代理:山本)

#### 4. 次 第

##### 1. 開会

##### 2. 委員の紹介

##### 3. 議事

(1) 神戸三宮「えき~まち空間」基本計画の策定

(2) 新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目再整備の  
進捗状況

(3) 現在の「都心三宮の動き」

##### 4. 閉会

## 1. 開 会

### ○都心三宮再整備課長

皆様、おはようございます。本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから、第4回都心三宮再整備推進会議を開催いたします。

私は本日、事務局として進行を務めさせていただきます。都心再整備本部都心三宮再整備課長の清水と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、委員の皆様にご確認をさせていただきたいと思っております。

本日は、報道機関より会議風景を撮影したい旨の申し入れがございましたので、議事に入るまでということで、許可をさせていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございます。ご異議がないようですので、撮影を許可いたしたいと思っております。報道機関の方は、議事に入るまで、撮影をしていただいて結構でございます。

それでは開会にあたりまして、神戸市都心再整備本部長の今西よりご挨拶申し上げます。

### ○都心再整備本部長

皆さん、おはようございます。理事の今西でございます。本年度から都心再整備本部を担当いたしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、皆様大変お忙しい中、そして朝早くから第4回都心再整備推進会議にご出席を賜りましてまことにありがとうございます。厚く御礼を申し上げたいと思っております。

今日の会議では、3つ議題を予定してございまして、1つは「えきまち空間」の基本計画でございます。それから2つ目は、「雲井通5・6丁目の再整備」の進捗状況のご報告をさせてもらいたいと思っております。そして現在の「都心三宮の動き」についてご説明させていただきたいと思っております。

この「えきまち空間」の基本計画につきましては、既にこの会議で三度にわたりまして皆様方にご議論をいただいております。そして、市民意見公募をさせていただきまして、多くの意見をいただいております。それらを調整しておりますけれども、本日計画がようやく策定できるということになりましたので、今日ご報告をさせていただくというものでございます。

「雲井通の5・6丁目の再整備」につきましては、5月に事業主体となります「雲井通5丁目再開発株式会社」を設立させていただきました。これは、もう地権者が全員出資をしていただいて設立をされたものでございます。そして、今後の事業化に支援をいただく事業協力者の公募を行ってございましたけれども、この点については新聞紙上で皆様御承

知のとおり三菱地所を中心とするグループに既に決定させていただいたというところでございます。

8月には、国土交通省と神戸市の連名で国道2号等・神戸三宮駅前空間の整備方針を取りまとめさせていただきました。これについては、いずれも詳しく後ほど御説明させていただきたいと思っております。

構想発表から時間が経過してございますけれども、ようやく本格的な事業実施の段階に入ってきたと考えているところでございます。この三宮が、神戸の駅前の玄関としてふさわしい魅力的で快適でにぎやかな都心になるように、私ども今後とも精いっぱい努力をしてみたいと思っておりますし、皆様方のご指導・ご鞭撻を是非ともよろしくお願い申し上げたいと思っております。

なお、今日実はこの会議と市会本会議がバッティングしてしまいまして、私は会議を中座させていただかなくてはならなくなりました。初回の参加で大変申しわけありませんけれども、ご理解を賜りたいと思っておりますのでございます。

最後になりますけれども、本日の会議に忌憚のない皆様方のご意見を積極的にいただきますようお願いを申し上げまして、簡単ですけれども開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。今日はどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

## ○都心三宮再整備課長

それでは、会議に入ります前に、お手元の資料を確認させていただきたいと思っております。まず、議事次第と会議資料につきましては、事前にお送りをさせていただいております。本日、資料がお手元がない方がいらっしゃいましたら、おっしゃってください。よろしいでしょうか。

あと、本日の追加の配付資料といたしまして机の上に置かせていただいておりますけれども、委員等の出欠表と、あと先週の金曜日に公表いたしました平成30年度連節バス社会実験に関する記者提供資料がございます。あと、本日時間の関係でご発言いただけなかった方にご意見をご記入いただく用紙も配付をさせていただいております。資料に不足があれば係の者におっしゃってください。よろしいでしょうか。

## 2. 委員の紹介

続きまして、本日の出席者のご紹介でございますけれども、時間の都合によりまして配付しております委員等出欠表をもちましてご紹介にかえさせていただきたいと思っております。ご了承ください。

それでは、議事に移りたいと思っております。大変恐縮でございますけれども、ここで理事の今西は次の公務のため退席させていただきます。

(今西理事退席)

**○都心三宮再整備課長**

それでは、ここからは加藤会長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

**○会長**

皆様、おはようございます。どうぞ今日もよろしくお願いいたします。今西理事のほうからもお話ありましたけれども、3回を終了して、皆さんの議論の成果ということで、あるいは市民の皆さんからのご意見を集約する形で今回この基本計画が取りまとめられたということでもありますので、今から説明いただきますけれども、忌憚のないところでご意見をさらに賜ればと思っております。

**○都心三宮再整備課長**

すみません。これで報道機関の撮影を終了したいと思います。よろしくお願いいたします。

**3. 議 事**

**(1) 神戸三宮「えき～まち空間」基本計画の策定**

**(2) 新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目再整備の進捗状況**

**○会長**

そうしましたら、お手元の資料の議事1と議事2、1のほうは神戸三宮「えき～まち空間」基本計画、2のほうは雲井通5・6丁目再整備の進捗状況でありますけれども、2つまとめて事務局のほうからご説明いただきまして、後ほど皆さんからご意見いただくことにしたいと思います。では、よろしくお願いいたします。

**○都心交通担当課長**

都心再整備本部都心交通担当課長の北田でございます。私のほうから議事(1)の神戸三宮「えき～まち空間」基本計画の策定についてご説明させていただきます。

お手元の資料2-1をご覧ください。まず「1. 策定スケジュール」でございますが、前回3月30日の第3回都心三宮再整備推進会議の場で、基本計画案に対する市民意見募集結果についてご報告させていただきました。その後、基本計画の案を修正させていただきました。本日基本計画としてご公表させていただくものになります。「2. 主な変更箇所」でございますが、市民意見などを踏まえまして基本計画をよりわかりやすいものとなるよう、主に図や文言の修正等を中心に行っております。具体的には、例えば1つ目の内容としまして、空間・交通・景観3つの視点につきまして「えき～まち空間」をどういった空

間にしたいのか、また交通をどう処理するのか、景観はどうするのかといった基本的な考え方の部分と、それを実現するための今後の取り組みといった部分に構成を分けてご紹介します。また、市民の皆様から特にご意見を多くいただきましたユニバーサルデザイン、あるいは自転車の考え方につきましては、その記述内容について充実させていただいております。さらに、特に交通につきましては、三宮クロススクエアの中にも駅へのアクセスに必要な空間を確保することとしたこと、また現在の都心における自動車の交通特性、あるいは三宮クロススクエアについては段階的に整備を進めること、また各段階において必要となる周辺の交通対策などをよりわかりやすく説明する内容に変更してご紹介します。後ほど少し詳しくご説明いたします。

続きまして、資料2-2をご覧ください。「えき～まち空間」基本計画の概要についてご説明させていただきます。まず1ページ目の基本計画策定の背景と目的でございしますが、三宮にある6つの駅とバス乗場を1つの大きな駅と捉えて、その駅と街をつなぐ神戸の象徴となる新しい駅前空間として「えき～まち空間」を創出することといたしました。この「えき～まち空間」において行政と民間が一体となったすばらしい空間づくりを進めていくためにも、官民共通の具体的な目標像とその実現に向けた取り組みを示すことを目的に、基本計画を策定するものでございます。

また、「えき～まち空間」や三宮クロススクエアの位置づけ・役割につきましては、「えき～まち空間」の構成と特性、中ほどになりますが、そこで3つ記載してご紹介します。まず1つ目が、駅と駅をつなぐということで、各駅の改札からの乗りかえ動線をわかりやすく、また移動しやすくするとともに、新たなバスターミナルや駅前広場の整備によってバス乗場を集約し、交通拠点としてのわかりやすさを向上させます。

2つ目が、「えき」と「まち」をつなぐということで、地上における人と公共交通優先の空間、三宮クロススクエアが現在自動車のための空間によって分断されている「えき」と「まち」をつなぎます。

また、3つ目ですが、神戸の玄関口をつくるということで、三宮クロススクエアと三宮交差点を囲む4つの外部の民間開発が、互いに向き合う一体的なデザインとすることで、新たに神戸の玄関口にふさわしい空間を創出してまいります。

2ページ目をお開きください。「えき～まち空間」の基本的な考え方につきましては、空間・交通・景観の3つの視点でまとめてご紹介します。まず空間でございしますが、「えき～まち空間」では行政が中心となって整備する道路や広場といった公共施設と、周辺の民間施設のピロティや通路といった公共的な空間と合わせて一体的な公共空間として調整を行い、整備を進めてまいります。また、三宮クロススクエア、駅前広場、新たなバスターミナルなどといった公共施設につきましては、行政が中心となって整備を進めてまいります。

続きまして、交通でございしますが、民間施設の開発などとも合わせて見通しのよい通路

やエレベーター・エスカレーターを配置するなど、駅から駅への乗りかえ動線の改善を図っていきます。また、三宮クロススクエアを核に、「えき」から「まち」へ地上レベルの回遊性の向上を図ってまいります。さらに、バスやタクシーの乗降場の集約などによる公共交通の利便性の向上、また駅前広場の再編・拡充などによる自動車の駅やまちなかへのアクセス向上を図ってまいります。

3 ページ目でございますが、景観につきましては特に「えき～まち空間」における景観形成に求める要素としまして、主に低層部における公共空間と「まち」とのつながり、また高層部における解放感とゆとりを感じる空間、高質で穏やかな建築物のデザイン、三宮交差点を中心にした新しい神戸の玄関口としての顔づくりといった事柄に取り組んでまいります。今後、基本的な考え方に基きまして、公共空間・建築物・夜間景観・屋外広告物について、景観デザインコードを策定してまいります。また、今後の取り組みといたしまして、多様な関係者の協働による公共空間の利活用、管理運営を行うエリアマネジメントに取り組んでまいります。

4 ページ目の、都心における交通体系の考え方につきましては、最も大きく変更した箇所になりますので、資料2-3基本計画の本編でご説明させていただきます。

資料2-3の25ページをお開きください。「えき～まち空間」、三宮クロススクエアなど、歩行者中心の街の実現に向けて、自動車交通マネジメント、歩行環境の向上、公共交通など多様な交通手段の確保といった3つの件において、それらを踏まえた総合的な交通体系を構築していきます。

26 ページでございますが、現在の都心における自動車交通の特性を示してございます。都心における自動車交通量ですが、この15年間でおよそ3割減少してございます。今後もこの傾向が続くと考えております。また、都心の主要道路、特に東西の中央幹線におきましては、都心に用のない通過交通が半分近く流入していることがわかります。

続きまして27ページでございますが、こうした状況のもと、都心を通る交通の円滑な処理、また都心に用のある交通のアクセス向上、自動車交通から公共交通への転換に取り組んでまいります。

29 ページをご覧ください。三宮クロススクエアにつきましては、段階的に整備を進めてまいります。具体的には第一段階としまして、三宮クロススクエアの東側について2025年をめどに車線の減少を進めてまいります。また、この時期におきましては、新たなバスターミナルの1期整備が完了してございます。また、第二段階としましては、三宮クロススクエア東側の完成、駅へのアクセスのための空間は残ることになりますが、これを2030年めどに進めてまいります。この時期には、新たなバスターミナルの整備が完了し、また広域道路ネットワークとしまして、大阪湾岸道路などの供用が行われている時期と考えてございます。その後、具体的な年次はお示ししておりませんが、将来像として三

宮クロススクエアの完成というものを目指してまいります。

30ページからは、各段階において必要となる周辺の自動車交通対策をまとめてございます。第一段階におきましては、新たなバスターミナルの整備などに伴い、三宮東交差点の改良、あるいは歩行者デッキの整備などの対策が必要と考えてございます。

また、31ページの第二段階におきましては、外周道路の自動車交通量が増加するというので、一部の交差点で渋滞解消に向けた交差点改良などの対策が必要と考えてございます。

これら、第一段階・第二段階における課題としまして、クロススクエアを実現するための交通対策などについて現在交通管理者・道路管理者とまさに協議をさせていただいているところでございます。

最後に32ページでございしますが、三宮クロススクエアの完成段階につきましては、現時点で実現のための現実的な対策がお示しできない状況でございしますが、目指すべき将来像の実現に向け、自動運転やAIなどの技術革新、あるいは人口の増減など社会情勢の変化を見据え、必要な対策を引き続き検討してまいります。

33ページ、34ページには、歩行環境の向上、あるいは公共交通など多様な交通手段の確保として現在取り組んでいる施策や、今後取り組む施策についてお示しをしております。

交通について少し詳しくご説明させていただきましたが、神戸三宮「えき~まち空間」基本計画についてのご説明は以上でございます。

## ○再開発担当係長

続きまして、議事の(2)新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目の再整備の進捗状況につきまして、都心再整備本部再開発担当係長の山崎でございます。ご説明させていただきます。

それでは、資料3-1をご覧ください。雲井通5丁目再開発株式会社の設立についてでございます。

まず「1. 設立経緯」をご説明させていただきます。今年の2月より、神戸市、神戸すまいまちづくり公社、サンパル地権者代表からなる発起人が中心となり、定款作成や株式割り当てなど会社設立に向けた準備を開始いたしました。4月には発起人の出資振り込み、地権者から株主募集を行い、5月15日に再開発会社の創立総会を開催、5月16日付で再開発会社の設立登記が完了いたしました。

「2. 概要」についてでございます。会社の名称は、雲井通5丁目再開発株式会社でございます。都市再開発法に基づく市街地再開発事業の施行者となる非公開株式会社でございます。

代表取締役には神戸すまいまちづくり公社の鳥居代表理事、所在地は雲井通5丁目3-

1 サンプルビルの7階に事務所を設け、資本金は500万円、発行株数は100株でございます。

次に「3. 出資状況」ですが、今回株主募集を行ったところ、雲井通5丁目の地権者22名全員に出資をいただくことができました。出資割合は、神戸市が51株、神戸すまいまちづくり公社が15株、兵庫県が3株、その他地権者19名で31株、合計100株となっております。その考え方につきましては、地積割合に応じて出資を行うことを基本としつつ、発起人及び兵庫県を除いたサンプルの地権者が1権利につき1株取得できるよう割り当てたものでございます。

今回設立した再開発会社の「4. 対象エリア」でございますが、図の赤枠に示すとおり1期の雲井通5丁目の街区を対象としております。資料3-1の説明は以上です。

続きまして、資料3-2-1をご覧ください。雲井通5丁目地区再整備に係る事業協力者の募集開始についてでございます。新たなバスターミナルの整備を予定しております雲井通5丁目では、地権者の皆様の出資により5月に再開発会社を設立したところですが、市街再開発事業としての事業化を検討するため、このたび再開発会社では技術的なサポート等をいただける事業協力者を募集いたしました。

「1. 事業協力者に求める協力内容」の①から④にありますとおり、事業協力者には再開発会社の運営支援や事業計画の作成支援といった内容を行っていただく予定であり、2の(1)応募者に関する事項のとおり、市街地再開発事業等に関する一定の実績を有するとともに、信用力・資力・財務体力の基準に該当するなどの参加資格要件を満たすほか、2の(2)提案に関する事項のとおり、1期を対象にコンセプトや全体構成など再開発事業の推進に向けた提案、事業協力に関する実施体制などに関する提案を求めました。

続いて、裏面の「4. 主なスケジュール」をご覧ください。6月25日より募集要項の配布を開始し、8月6日に公募受付を締め切りました。8月下旬に選定委員会を開催し、9月11日に選定結果の通知及び公表を行いましたので、引き続き内容についてご報告させていただきます。

資料3-2-2をご覧ください。雲井通5丁目地区再整備に係る事業協力者の優先交渉権者及び次点交渉権者の決定についてでございます。今回の募集には2グループよりお申し込みがあり、「3. 選定に関する委員会」のとおり、神戸大学の小谷名誉教授を委員長として、学識経験者等から構成された6名の委員によりまして、応募者から提出された書類等の審査を行いました。その結果、1及び2のとおり三菱地所株式会社グループが150点満点中122.8点、森ビル都市企画株式会社が116.2点となり、再開発会社として三菱地所株式会社グループを事業協力者の優先交渉権者に選定することといたしました。

選定されました三菱地所グループの提案概要をご紹介しますので、資料3-2-3をご覧ください。タイトルは、『「つなぐ」～神戸を世界とつなぐ、未来へつなぐ、次世代

の都心創造プロジェクト～』といたしまして、その下に「つなぐ」をキーワードとした4つのテーマで提案を行っております。

まず、歴史を未来へつなぐでございます。世界的建築家の坂茂氏を設計監修に迎え、培われてきた神戸のまちのにぎわい・風景をつなぎ、リーディングプロジェクトにふさわしい品格と継続性などの計画形成を図り、新しい神戸のシンボルをつくることを提案しています。

次は、多様な都市機能をつなぐでございます。ビル全体として32階、延べ床面積約10万平米程度を想定し、上層部は神戸を代表するフラッグシップオフィスを中心とした構成としつつ、ホテルやビル基壇部の屋上庭園を中心に、スカイライブラリーやビジネス支援機能、ホテルラウンジ等を集約した知のリビング、またバスターミナル及び待合空間を核に、観光機能や商業機能など神戸ライフの魅力の詰まったにぎわい拠点であるばす<sup>※</sup>まち空間等との相乗効果により、国内外から企業・人を神戸に呼ぶことを提案しています。また、「街のにぎわいをつなぐ」として、バスターミナル等の都市のジャンクションに集まる人の流れを知のリビングにつなぐため、施設内の多様なアクティビティに触れながら上部に人の流れを誘導する吹き抜け空間—バーティカルパサージュを間に設け、にぎわいを引き込む立体回遊の仕掛けの創出を提案しています。

最後に、「価値をつなぐ」でございます。三菱地所・三菱倉庫・神鋼不動産等により万全の協力体制を整えて、再開発会社に必要な人材や資金を提供するなど、事業協力に取り組むほか、将来的に自ら保留床を取得するとともに、権利床、保留床を一体運用し再整備ビルの魅力を中期・長期にわたって維持・向上することとしています。合わせて、再整備ビルの魅力を周辺につなぐようエリアマネジメントにも取り組むことを提案しています。

以上、提案の概要を終わります。もう一度資料3-2-2をご覧ください。今、ご説明させていただきました提案は、あくまで募集要項に基づき応募者側が作成したものであり、そのまま実現されるものではありません。これからその提案をもとに再開発会社、地権者とともに事業計画等を策定していくこととなります。また、資料裏面に記載のとおり、優先交渉権者に対しては通知に合わせて「4.さらなる検討を求める主な事項」のところに、例えば、他都市にはない神戸の顔となるようなシンボルかつランドマーク性の高いデザインとなるようにすることなど、4項目について今後さらなる検討を求めていきたいと考えております。

続きまして、資料3-3をご覧ください。8月14日に公表しました国道2号等神戸三宮駅前空間の整備方針についてでございます。このたび、国土交通省と神戸市では、国道2号等神戸三宮駅前空間の整備方針を取りまとめ、連名で発表いたしました。裏面以降が公表内容となります。裏面及びパワーポイント、1枚目の図にありますとおり、三宮駅周辺における中・長距離バスの乗降場が6つに分散している・駅から街へのつながりが弱い

といった課題に対して、国と市が連携して中・長距離バスターミナル整備によるモーダルコネクト（交通結節機能）の強化や国道2号周辺の交通円滑化、魅力的な駅前空間の整備及び街の回遊性向上などの取り組み、民間事業者等の知見を広く取り入れながら、官・民連携で事業計画等の具体化を進めることによって三宮駅前において、ひと・モノ・交通が行き交う新たな港となるような未来型駅前空間の創出を図っていくという考えを示した内容となっております。この整備方針の発表により、国道2号の管理のほか多様な交通網の接続を強化するモーダルコネクトに取り組む国として、積極的に参画支援していただけることになりました。詳細については、これから国と市で協議・調整を行いながら具体化を図っていく予定でございます。

資料の説明は以上でございます。ありがとうございました。

## ○会長

どうもありがとうございました。そうしましたら、この議題1と2まとめてご説明いただいたわけですが、どこからでも結構ですので、ご意見お願いいたします。議題1については、一応計画として完成したのを見ていただいたということになります。ご質問でもコメントでも結構でございます。皆さん、いかがでございましょうか。なかなか最初にご意見が出にくいところですけども、いかがでしょうか。

## ○委員

感想というか、今日の議事の範囲をちょっと超えてしまうかもしれませんが、総論的なお話をさせていただきたいと思います。

とにかく計画がどんどん大きくなっていますし、書類上に落とした形を実行しなければもう意味がないと思っていますので、我々民間としてはアクセラレータとして支援できるように責任を果たしていきたいと思っています。

今日も「えきまち空間」、クロススクエア、そしてバスターミナルビルのお話がありました。それから2号線の関係もありました。それぞれのプロジェクトがばらばらに動かないように全体を調整することは必要ですが、全体を調整した結果、どんどん進捗が遅れていくのでは話になりません。スピードアップして進めるという大前提でそれぞれのプロジェクトをできるだけ進路調整をしながら、強気に推進していただきたいと思います。ですから絵としてはバスターミナルビルができたときには、ここはこうなって駅前広場もJRの東口もできている。あるいはクロススクエアは通れる状態になっている、2号線の出入りはこうなんだというようなことで同時期にそれぞれが生まれていくようによろしくお願ひしたいと思っています。要は、こうやっているいろいろご報告いただくのは大変ありがたいんですけども、もうここまで来れば実務ベースで粛々とスピーディーかつステディに積み上げて進展させていただきたいと思います。

偉そうなことを言いましたので、今度は我々の役割みたいな話になりますけども、やは

りこういった都市基盤整備を基にしてそれぞれにプロジェクトが動いていくわけですから、さらにかけ声を強めることも含めて、神戸の活性化に向けた活動を展開していく義務があると思っております。

それからもう一つは、例えば都心の話だけになってくるかもしれませんが、先ほどご報告のあったエリアマネジメント、あるいはB I D、こういったところでやっぱりどういう組織ができてそれに経済界としてどう答えられるのか。そういったことも我々の責任としてあるのだろうと思っているわけであります。

それから最後に、ちょっと余計なことかもしれませんが、県のほうが県庁建てかえの絡みで元町も含めていろいろ発表されておられたものだから、是非この都心ウォーターフロント再整備でいろいろ研究されたことを、やはり県庁の建てかえ、あの周辺の整備、あるいは元町の整備というものに反映させていただきたい。そしたら神戸市としては都心ウォーターフロントという言葉の中に、県庁も山手というようなものも入れ込めたらいいのではないかなど。特に山手として考えるときは、北野町から県庁として大倉山のほうに向けて、本当の山手ですね。東西の山手というのも意識して、いろいろ意見交換をして、今回のこの作業の成果を踏まえて、県とよくよく意見交換していただきたいと思いました。

以上です。

## ○会長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。皆さん。先ほども申しましたけど、地元の組織の皆さんは大変たくさんいらっしゃいますので、お願いするのなかなか難しいですけども、是非とも何かコメントがありましたらお願いいたします。いかがですか。

## ○委員

とても素晴らしい計画ができてうれしいですけど、何か三宮一点豪華主義になっているような感じがしまして、文化ホールにしても大倉山あたりからも動きましたら、あそこは一体何が残るのだろうという、楠公さんぐらいしか残らないような場所になっていきますし、ハードの部分はとてもいいと思うのですが、もう少しソフト部分で足りない部分を補うということを同時にやっていかないと、ハードができてからソフトが後回しになると、やはり街が街でなくなってきましたから。新幹線の新神戸駅のあたりからいかにこれを上手につなげないと、神戸の街は本当にインバウンドが来ても新幹線でポツンと降りて何ひとつ本当の意味のアクセスができていない街ですから、もう少し道がないとかそういうことより生田川の上に蓋をして大きい幹線道路にしてしまっただけで三宮につなげるとか、神戸空港から新幹線を同じモノレールでうまくつなぐ方法とか、そういうものをしていかないと本当に三宮だけがよくなっても、周りには元町もありますし、新開地や北野町に参りましたら、何かポツッと三宮だけ輝いて、大げさですが、周辺が砂漠の村のようになるのではないかと心配がございますので、そういう点を考慮していただけたらと思います。

高齢化してきますし、子供が減ってきていますのはもうわかっていることですので、もう少し高齢者対策も同時に三宮駅周辺でできるような形がいいではないかと思えます。

以上です。

### ○会長

どうしてもこの会議、ハードのほうの前面に出てきがちですけども、やはりソフトと言いますか、エリアマネジメントとかB I Dの話は出ましたけれども、やはりこういう整備されたものをどのように動かしていくのか。この次の段階なのかもわかりませんが、あるいはこう議論と同時に是非とも議論を皆さんと一緒に積み上げられるといいなと思っております。ありがとうございました。

いかがでしょう。

### ○委員

今いろいろと説明を受けまして、私ら古い人間としましてはすごく先進的に変わっていくのだなということを思っておりますが、実は今説明を受けたことを十分にまだ理解できていない部分もありまして、先ほどもお話がありましたように、ここだけがよくなるだけではなくて、やっぱり周囲の神戸全体を結びつけられるようなことをちょっと考えていただかないといけないのではないかと。私は兵庫区ですけども、兵庫区のほうでもいろいろ変化は今あります。また、それぞれの区でも変わってきていると思うのですが、やはりそこらとうまくリンクできるようなことがないといけないのではないかと。先ほど文化ホールが、あの跡はどうなるのだと、前回私もその点でちょっと跡地をどうするのですかという質問もさせていただいたのですが、やはりあれが抜けてしまうと大倉山周辺が何か穴が開いたようになってしまうのではないかとという心配もあるわけです。これは私たち兵庫区の区民からもちょっと意見が出ておりますので、そういったことも何かの形で考えていただかないといけないのではないかなと思っております。

以上です。

### ○会長

ありがとうございました。いかがですか。

### ○委員

今、先ほど国道2号等神戸三宮駅前空間の整備方針についてということで、神戸市さんのほうからございましたけれども、このモーダルコネクト（交通結節機能）を強化するということが非常に重要に考えておりまして、全国で言えば新宿それから品川とか渋谷とか、関西で言えばここ神戸が最初の取り組みになるかと思っております。高速道路ネットワークが14,000km、大型幹線道路網がどんどんできていく中で、中・長距離バスをどう使っていくかということがやっぱり利用者に対して本当に利便性のあるものにしていくということが、これからそのインバウンドを全国に広げていくとか、もちろん神戸に呼び込むと

かも含めて非常に大事なことだと思っています。それも施策の取り組みの中でこういったことをきっちりやっていきたいと思っているところです。今回の都心三宮再整備推進に関しましては、もともとの三宮の駅前クロススクエアで閉じるというような大きな話がある中で、それは最終的にこれからどう交通の流れが変わっていくかとかということがわからない中で本当に段階的に整備をされる。最初から少しずつ整備をされて、将来的にまたいろいろな状況を見ながら考えていきましょう。本当に一気に閉じてしまうということは、本来そこに用がある人が来れないようにするようなニュアンスもあったのですね。この辺をうまくまとめられているので、こういう形というのはなかなかいいのではないかと思います。先ほどもお話がありましたように、インバウンドがなかなか大阪・京都・奈良に来ていてなかなか神戸にも呼び込めていないという中で、本当にきちっといろいろな方にわかりやすい整備をすることで、呼び込む空間、よりよい空間をつくっていったらなと思っています。

以上です。

## ○会長

ありがとうございます。学識の先生方で、ちょっと一言お願いいたします。

## ○委員

どうもありがとうございます。今までのいろいろな議論が包括的に書き込まれているのかなと思うのですけれども、やはり時間もたっております。現時点でさまざまなプロジェクトも動き始めているという中で、正直なところいろいろな建物が個別にいろいろな対応をして建っていけばいいとは思っているのですけれども、まだちょっとクロススクエア全体の空間像がなかなか見えないかなという気がします。今後これが終わってすごく実務的なベースに入ってもう少し明らかになってくるのだろうとは思っているのですけれども、先ほどデザインコードということが課題として取り上げられておりました。それとも関連して申し上げますと、クロススクエアの背景となるのは建物ではあるのですけれども、その背景を計画的に考えると、かねてから申し上げていますが、景観とは基本的な配置と規模と機能だというふうに思うのですね。それらがクロススクエアに対していかに連携するかということが大事かなと。個別の敷地に個別に建っていくだけではなくて、クロススクエアというものと連結するものがあるわけですから、それに対してどう建っていくのかなということが重要だと考えますと、今回特に低層部の取り扱いというのが非常に重要ではないかと思っております。逆説的に言えば、デザインコードで配置と規模と機能を決めたいわけですが、そこはちょっと決めきれない。今の状況では。ということからしますと、少なくとも低層部の取り扱いに関しては、特にクロススクエア直近の部分に関しては、しっかりした空間像をもうちょっと描くことが課題ではないかと思っています。それは今いろいろなプロジェクトが動き始めているので、何か計画をもう一回デザインコードしっかり

考えて、こうしましょうということになかなか至らなくて、多分走りながら考えるということになってくるのですが、当面はやはりこのクロススクエアに関係する公共公益的な施設に関しましては、しっかりとした議論ができるような場を設けていただいて、そこから折り返しながら、事業を埋めるのではなくて、スピードアップをするんだけれども折り返しながら、全体の空間像というものにもう一度折り畳んでいくというようなことを考えないといけないかなというのが、今私自身が感じている課題、私自身の課題として思っていることです。

それからもう一つつまないことでいきますと、今回道路の段階的整備ということで、もちろんこれはこうあるべきだと思うのですが、この「えき≈まち空間」の最後にほかの街の例がありますよね。31ページとか32ページとかの段階的計画では、何が言いたいかというと、車道の部分の舗装が大事なのです。ほかの街を見てください。ここが本当のパブリックスペースになるには、車が通るけれども仕上げがアスファルトであってはなかなかクロススクエアにならないというのが、ここに挙げられている他都市の事例を見れば文字どおりそうなっているなと思うわけです。そういう点では、もちろん第一段階でアスファルト、第二段階でもう少し優しく書いていただいていますけれども、やっぱりアスファルトにしちゃうと道路だなと。ということは、先ほども言いました空間の連携のあり方が一番景観的に大事なので、その空間が切れないような仕組みにする。それを一番担保するのが床であり低層部であると思っていますので、そのあたりは今後のご検討の過程で留意いただきたいなと思っております。

以上です。

## ○会長

ありがとうございます。

## ○委員

いろいろ検討を積み重ねられた結果だというふうには理解しています。いろいろなものがばらばらに動き始めていて、それをどのようにマネジメントしていくかというところがこれから一番大きな課題ではないかと思えます。今日ご報告いただいた中でも、バスターミナル一つにしましても、再開発事業としての動き方と、これはバスターミナル部分ですね。道路としてつくっていく部分がどのようにつながっていくか。あるいは、そのホールの問題とか全てがばらばらに見えて、これで総合的な都市の空間として成り立つのだろうか、ちょっと危惧があります。ですので、一つ一つを動かしていくことはとても大事なのですけれども、どこかで全体をマネジメントしていく。それを誰がどのようにするかというのはこれからの課題だと思いますし、経済界あるいは民間も含めたエリアマネジメントであったり、何らかのマネジメントの仕組みというものがとても重要になってくるのではないかなと強く感じたところです。

もう一つは、三宮が神戸の中でどんな役割を担うのか。そういうところもやはり明確にしていく必要があると思いますね。その都心ウォーターフロントであったり、山手であったり、そういった神戸を構造化したときに、その中で三宮の役割は何なのか。やはり玄関として海と山をつなぐ、そういったところを明確にしていく。そのわかりやすさというものを支えているのは、やはり公共空間のあり方だと思います。民間と公共が一体になってパブリックスペースを豊かにしていくということが大きな課題として、今回の基本計画で明確に挙げるべきだと思います。そうすることによって、いろいろな動きをこのパブリックスペースからマネジメントしていくということで、ソフトがかかわってくる余地が大きくなっていくと考えます。ですから、そのパブリックスペースっていうのは敷地も一緒に考えていかないとだめですし、道路も舗装を考えてくださいと言っているのも、これもパブリックスペースとしての道路を考えてくださいというメッセージなわけですよ。そういう意味で、そのあたりをここで言うと空間計画のところだと思いますが、そこが余りに貧弱な気がする。もう少しパブリックスペースとは何か、そこで何を実現することによって三宮の山と海をつなぐような空間性、それがクロススクエアとして立ち上がってくるというあたりを共有するということが、この20年、30年という長いスパンの事業をつないでいく上でとても重要だと思います。ですから、この基本計画と同時に、そういった長い時間をつないでいくための仕組みですよ。それはソフトなマネジメント的なものと、それから都市計画というきっちりとした公共的な位置づけと、そういったものをうまく組み合わせることでこの長い時間をつないでいく、そういったことを考えていただきたいなと思います。

**○会長** ありがとうございます。皆さんからいただきましたご意見、また学識のお二人から非常に的確なコメントをいただいたと思います。最後におっしゃいましたことですが、空間的な展開、神戸の都心というのはモザイク状に非常に魅力的な空間をもとと備えていて、三宮だけではない。このあたりが非常に重要で、空間的なそういう方法で連携と言いますか、ありよう、あるいは時間の流れの中でというふうにおっしゃいましたけども、そこがシームレスにちゃんと流れていくこと。さらにプロジェクトの間。最近では地域施策ではコーディネーションポリシーという言葉をよく使いますが、こういう空間・時間・プロジェクト間のコーディネーションと言いますか、これがやはりこれから大変重要になってくるだろうということを皆さんにご指摘いただいたと思います。それと、事業のスピードアップと言いますか、やはりこういう拙速はもちろんいけないですけども、しかし今までも流れはものすごい早く動いています。失われる利益というのはやはり大きいわけで、それでは事業をやはりスピードアップしていく。スピードアップしていろいろな動きがあるということが、起業家にとっても起業家マインドを刺激して、そこにまた投資が行われるという構図が神戸に出てくるだろうと思っています。

ありがとうございました。そうしましたら、今日はお時間の関係もありますので、もう次の議題のほうに移らせていただきたいと思います。

議事3であります。現在の「都心三宮の動き」ということで、事務局のほうからご説明よろしくお願いたします。

### (3) 現在の「都心三宮の動き」

#### ○都心三宮再整備課長

それでは、都心三宮再整備に関する最近の動きとしまして、4点ご説明を担当部局のほうからさせていただきます。

まず1点目が、新・神戸文化ホール整備基本計画策定の進捗状況について、文化交流課のほうからご説明いたします。

#### ○文化企画担当課長

市民参画推進局文化交流課担当課長の川畑でございます。私のほうから新しい神戸文化ホール整備基本計画策定の進捗状況についてご報告させていただきます。

前回、第三回の推進会議では、新しい神戸文化ホールの整備に向けて検討委員会を設置し、ホールの機能や規模、コンセプト等の検討を行うなど、幅広くご意見をお聞きしながら新しいホールの整備基本計画を策定していくことをご報告させていただきました。本日は、この基本計画策定に向けた進捗状況として、今年6月から8月にかけて開催されました検討委員会での検討状況と、その中で示された基本計画のそのあとの概要についてご報告させていただきます。

資料につきましては4-1-1で、基本計画の素案、資料4-1-2に8月22日に第3回の検討委員会を行いましたので、その議事録をつけております。本日はご説明につきましては前方のスライドでさせていただきますので、前方のスライドのほうをご覧ください。

まず、検討委員会の開催状況でございますが、6月6日の第1回検討委員会におきまして、この基本計画の構成案や整備場所・規模・機能・仕様等についてご議論いただきました。その後、7月11日の第2回、また8月22日の第3回の検討委員会では、本日配付しております基本計画の素案についてご議論いただきました。ホールの規模や機能・仕様等については、もう少し議論が必要であるということで、また日程調整中ではございますが、11月ごろに第4回の検討委員会を開催し、現在基本計画の素案としておりますものを基本計画の案としてまとめていく予定でございます。なお、各検討委員会の終了後には、会議の資料と議事要旨を公開し市民意見募集を行うなど、広くご意見をいただきながら進めているところでございます。

続きまして、基本計画の構成ですが、まず初めに、基本計画の位置づけや新しいホールが目指す機能・役割といった整備方針をお示した上で、2点目、3点目のところにあります事業や管理運営の考え方を整備しております。

4の施設計画のところでは、整備する施設の基本性能や主たる機能所室、具体的には客席であるとか舞台・楽屋といった所室などについて整備するとともに、施設計画に当たっての留意事項等をまとめていく予定でございます。

5の整備手法及び整備予定地、6のスケジュールにつきましては、雲井通5丁目、6丁目の再整備事業と市役所2号館の再整備事業、それぞれの事業計画と調整を図りながらまとめていく予定でございます。

また、最後の章では、施設整備に向けた今後の検討課題として、現在の文化ホールからの継続性への配慮やホール間の連携ができる制度の検討などについて整備し、まとめていく予定でございます。新しいホールが目指す機能・役割につきましては、これまで文化ホールが担ってきた市民主体の芸術文化活動の促進などに加え、4点目のところにあります多様な人材が交流し、街のにぎわいを生み出す空間と経済波及効果の創出、5点目のところになります神戸の個性を発揮することによる選ばれる街の実現、そういった新しい機能・役割とともに6つの柱でまとめております。

施設計画における基本性能の整備のところでは、現在検討しております大ホール機能として客席数1,500席以上の音楽利用から舞台芸術・集会利用などにも対応できる多目的ホールを、また中ホール機能として客席数700から900席程度の音楽専用ホールを検討しております。これに加えて、また後ほどご説明ありますけれども、中央区の新たな文化施設として整備するホール機能として、客席数500席程度の音楽利用から舞台芸術・集会利用などにも対応できる多目的ホールについて検討を進めているところでございます。これらのホールの客席数や機能・仕様等につきましては、先ほども申し上げましたように引き続き検討委員会でもご議論いただきながら、基本計画（案）としてまとめていく予定でございます。

新しい神戸文化ホールの整備基本計画の進捗状況につきましては以上でございます。

### ○都心三宮再整備課長

続きまして、2つ目でございます。新中央区総合庁舎整備基本計画につきましては、区役所課よりご説明いたします。

### ○区役所庁舎整備担当課長

行財政局区役所課の上田でございます。私のほうからはお手元の資料の4-2、新中央区総合庁舎整備基本計画、また前のスライドと合わせましてご説明させていただきたいと思っております。

前回の推進会議では、現在バスターミナルの整備予定地でございます中央区庁舎を現在

の市役所本庁舎 3 号館の場所に建替え移転し、また同じくバスターミナルの予定地にございます勤労会館、あるいは現在区内にございます葺合文化センター、生田文化会館といった施設の機能からなる、新たな文化施設の中の機能のうちの会議室もしくは特定目的室といった機能を合わせまして、新中央区総合庁舎として整備する方針であることをご報告させていただきました。

前回の会議以降、この新中央区総合庁舎の基本的な考え方につきまして、基本計画の案として取りまとめまして市民意見の募集を実施いたしまして、7月に基本計画を策定いたしました。そして、現在はこの基本計画に基づきまして設計に着手し、より具体化に向けた検討を進めていっているというような状況でございます。

まず、新中央区総合庁舎の施設計画の概要でございます。お手元の資料でいきますと 8 ページ、9 ページあたりでございます。施設といたしましては、現在の 3 号館と同程度の規模、延べ床面積で申しますと約 1 万 8, 0 0 0 平米程度。高さが地上 1 0 階、地下 1 階程度を想定しております。その中で、建物の 2 階からおおむね 7 階程度までを中央区役所とし、その上層部に新たな文化施設の会議室・多目的室を配置いたします。また、1 階には新たな文化施設の多目的ホールを配置し、地下は駐車場ということをございます。また、現在さんちかのほうから地下道で直接つながっております市役所 2 号館につきましても、現在建替えの検討を進めているところでございますが、この 2 号館側とこの新中央区総合庁舎との行き来につきましても、利便性の高いアクセスについて検討していきたいと考えてございます。

また、1 0 ページから 1 2 ページのあたりにございますように、整備にあたりましては地震など災害にも強い庁舎であること、あるいは省エネで環境に優しい庁舎であること、そして全ての方にとってわかりやすく利用しやすい庁舎であることということが重要であると考えてございます。

続きまして、新区役所の施設内容でございますが、資料でいきますと 1 3 ページ、1 4 ページでございますが、まず区役所は区民の皆様への行政サービスの拠点となりますので、引っ越し関連手続などワンストップで可能な総合窓口の設置、あるいは十分な待合スペース、プライバシーへの配慮など全ての来庁者にとって快適で安心できる窓口環境を生み出していきたいと思っております。また、区民の地域活動や交流の拠点としての地域活動コーナー、あるいは情報発信等を行うスペースの設置を検討してまいりたいと思っております。加えて、今後の社会変化と災害等にも柔軟に対応できる区の行政拠点としての機能を維持できる庁舎を目指したいと考えてございます。

引き続き、新たな文化施設につきましては、また文化交流課のほうから説明申し上げます。

**○文化企画担当課長**

文化交流課担当課長の川畑です。私のほうから新たな文化施設のほうのご説明をさせていただきます。資料につきましては基本計画の15ページをご覧ください。中央区庁舎と一体的に整備する新たな文化施設につきましては、先ほどご説明がありましたように勤労会館・葺合文化センター・及び生田文化会館の機能を合わせたものであり、中央区民・市民の皆様の文化活動・地域活動等の拠点として整備してまいります。

主な機能として、さまざまな芸術や生活文化に関する講座等を開講するなど、区民の文化活動・地域活動・生涯学習活動等の拠点としての機能や、就業を支援するプログラムの実施など、勤労市民の福祉向上のための拠点としての機能などを確保します。

資料16ページをご覧ください。主な施設内容としては、大・中・小の会議室を20から30室程度配置するとともに、美術室や音楽室などの特定目的室を各1から2室程度配置いたします。また、1階の部分にはさまざまな用途に使用できる収容人数200人から300人規模の多目的ホールを配置するほか、エントランス付近には明るく気軽に訪れやすい雰囲気のロビーやフリースペースを設ける予定でございます。

### ○区役所庁舎整備担当課長

今後は、この基本計画の考え方に基つきまして設計を行いまして、引き続き、設計、工事と進めまして、平成33年度の完成を目指して取り組んでまいりたいと考えてございます。

新中央区総合庁舎整備基本計画についての説明は以上でございます。ありがとうございます。

### ○都心三宮再整備課長

続きまして、3つ目の内容でございます。税関前歩道橋の設計競技の実施について、未来都市推進課よりご説明いたします。

### ○未来都市推進課長

企画調整局未来都市推進課長の若松でございます。税関前歩道橋 設計競技（コンペ）に着手いたしましたので、私からは、その内容についてご説明させていただきます。

資料4-3を配付させていただいておりますけれども、前面のスクリーンでご説明させていただきたいと思っております。前方にありますけれども、神戸は古くから街と港が近いにもかかわらず、赤で線を入れておりますけれども、国道2号によってその両者が分断されていると。いわゆる分断感というのがございまして、これをできれば解消したい、緩和したいというのがこの趣旨でございます。

模式的に挙げておりますけれども、上が北側、下が南側になります。近年、南側新港突堤西地区の再開発、これについては、平成23年に「港都神戸」グランドデザインを作成して以降、再開発の動きが本格化してまいりました。

一方では、三宮の動き、今日もございましたクロススクエア「えきまち空間」というの

がございます。その間に、ちょうど国道2号があるということで、フラワーロードに沿って今後クロススクエアから南側にずっと移って行って、市役所の庁舎の建て替えもでございます。さらに南側に行きますと、東遊園地の再整備もありますので、それを越えて南側に行くにはこの税関前の歩道橋の動線の改善をしたいということでございます。回遊性の向上と書いておりますけれども、この両地区をつないでいきたいというのが趣旨でございます。

現況の歩道橋の課題を幾つか挙げさせていただいております。この左側の地図は南北逆にしております。まず右側の絵でございますけれども、東遊園地からこの歩道橋を渡ろうとしたときには、この歩道橋が非常に狭くて勾配が急ということ。これも改善していきたい。

あと、国道を渡る部分は非常に狭くて、左側の図面で右下、東遊園地からみなとのもり公園、さらに南側のK I I T Oに行く際には、歩道橋を2回渡って行く必要があるということもございますので、こういったことも改善していきたいと思っております。

渡った先でございますけれども、阪神高速がございますので、これをくぐり抜けていくというか、これが非常に圧迫感がある空間でございますので、この歩道ができたのは昭和55年、ポートピア直前でございますけれども、その当時、臨港線という貨物線もございましたので、こういう形状にもなっておりますので、今となっては少しは改善できるかなと思っております。

歩道橋とは直接関係ございませんけれども、みなとのもり公園の桁下も暗いという課題もありますので、このあたりも改善していけたらと思っております。

いずれにしましても、阪神高速浜手バイパスがあって、南側に海があるという感じがなかなか今現在ではありませんので、それを何とか改善していきたいというのが趣旨でございます。

このたびコンペということで着手しております。今申し上げた課題を解決するために、できますれば今の歩道橋を全面的に架け替える再構築をしたいと考えています。コンペに求めるものとしては、「渡りたくなる歩道橋」ということで、橋梁形式とか平面の線形について提案者側が自由に提案していただくような形で提案を求めたいと考えております。

コンペについては二段階の審査をしていきます。二次審査に進めるのは5者程度と考えております。

最後にスケジュールになりますけれども、9月6日から募集要項を配布しております、今も提案者を募っている状況でございます。一次提案については10月下旬に審査いたしまして、先ほど申し上げた5者に絞り込んだあと二次提案で12月中旬に審査、年内には最優秀作品の決定をしたいと思っております。今年度内に予備設計を進めまして、引き続いて詳細設計、工事を平成31年度以降に進めていきたいと思っております。

以上でございます。

### ○都心三宮再整備課長

続きまして4点目でございます。連節バスの社会実験につきまして、公共交通課よりご説明いたします。

### ○公共交通課長

住宅都市局公共交通課の竹本と申します。説明させていただきます。

神戸市では新たな公共交通システムの導入可能性の検討ということで、その一環として昨年度の連節バスを走らせて実験という形でさせていただきました。昨年度開港150年の事業の一環ということで、海フェスタというのがありましたが、それに合わせてそこへの交通手段という形でやらせていただいたのですけれども、今年度についてはこういった大きなイベントのありなしにかかわらずどういった運行ができるのかと、回遊性に効果があるのかということを確認するという意味で、今年度も引き続き実験をさせていただきたいと考えております。今回は沿道の企業やそれから施設のご協力等いただきまして、観光船の割引でありますとか、オリジナルグッズのプレゼント、あるいは施設の優待券といった特典をご用意いたしまして、連節バスはじめシンボル性のあるバスでウォーターフロントを回遊していただくという企画としております。概要の目的もその辺を書かせていただいております。

日程としましては、10月の土日祝日の9日間を予定しております。運行区間につきましては、次のページにもあるのですけれども、三宮からウォーターフロントを循環するというルートで、各魅力スポットと言いますかこういったところを結んでいくということで考えております。昨年度に加えまして、今年度は新たにハーバーランド、それからポートオアシスに新しいバス停を設けまして実施したいと考えております。

車両につきましては、絵があると思うのですけれども、ラッピングをした連節バスに加えまして神姫バスさんのご協力もいただいて、スカイバスとか通常のバス、こういったものを織りまぜて1時間に2本程度のダイヤで運行したいと考えておりまして、この連節バスにつきましては、このデザインを公募いたしまして決定いたしました。選ばれたデザインですけれども、ポートタワーをモチーフに考えていただいた作品ということで、神戸のデザイン事務所にお勤めになられている小野良太様という方の作品を採用させていただいております。運賃は昨年引き続きまして大人100円子供50円という形にしております。

合わせまして、またアンケート調査で、料金でありますとか回遊性等々につきましてデータを集めたいということにしておりますので、是非乗っていただきまして神戸の都心ウォーターフロントをお楽しみいただくとともに、またご意見いただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

### ○都心三宮再整備課長

以上4点、都心三宮の動きについてご説明いたしました。ご説明は以上でございます。

### ○会長

ありがとうございました。そうしましたら、今ご説明いただきました現在の状況につきまして、何かご質問等ありましたらいただければと思います。いかがでしょうか。

最後の連節バスについてちょっと一言コメントいただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。

### ○委員

神戸市さんの計画に対しましてできるだけご協力をさせていただきたいと考えておりまして、今回も2回目の実験を行うことになりました。今回スカイバスも土曜日だけですがけれども、これも実施いたしまして、組み合わせ等々、これもいろいろと実験を行っていきたいと思っております。ウォーターフロントの横のラインの交通がないということで、去年からこの実験を行っておりますけれども、皆さん方も是非PRの方をお願いしたいというふうに思っております。

以上でございます。

### ○会長

ありがとうございます。他にいかがですか。

### ○委員

先ほどクロススクエアのソフト面の充実というふうなこと、具体的な議論を始めたほうがよいのではないかという意見がありましたが、私この計画の中にソフト面ですがけれども、子供に対する子育てに対する視点が今までは全く示されていないのではないかなと感じています。確かに高齢社会になってきておりますけれども、神戸市としては内外に向けて神戸市は若い世代を引き込みたいという大きな目的というかそういう芯があると思うのです。特に中央区の事情につきましては、以前は過疎化と、ドーナツ化というふうなことで、真ん中の中央区には子供が少なくなって、大規模な学校の統廃合を行ってきておりましたが、今現在は中央区において子供の数が、児童数が非常に増えてきております。確かに小学校も満杯の状態で見守りもいっぱい状態なのですが、その抜本的な対策というのはどうしても土地がないというふうなことで、全く手がつけられないというのが現状なのです。是非、バスターミナルの高層ビルの中に、例えばワンフロアで結構ですので保育であるとか託児所施設を設けるというふうなそういう考え方も持っていただければと考えています。たくさんの駅が集まっているところですから、ここに大きいそういうふうな施設があるということは働く若い方に対してすごく手厚いことにもつながりますし、また神戸

市がこういう一番駅の三宮の再開発の中でそういうふうなものをちゃんと組み込んでいるというふうなことは、市の内外に対しても強くアピールできるのではないかなと思っています。

以上です。

### ○会長

どうもありがとうございました。いかがでしょうか。何かご意見ございませんか。

### ○委員

ありがとうございます。話をずっと最初から聞いていまして、それぞれの立場が違いますので正しいことを皆さん方全ておっしゃっていると思います。ただ、やっぱりやるべきことと正しいことはちょっと違うと思いますので、これからの視点としてはやっぱり神戸の市民の人たちにこの計画が認められるか。あるいは神戸市民の方たちがいい街になりますねっていう視点で物事を進めないと、先ほどあったように観光客とかインバウンドも大切ですけども、住んでいらっしゃる市民の人たちのための計画だということが一番の視点になってくると思います。その中でやっぱり経済効果という部分は、やっぱり市民の方たちも興味がある話で、GDPがやっぱり神戸市はまだ6番目の都市ですから、その辺でこの計画を進めて街全体が潤って経済効果がどこまで上がっていくのかというような視点も多分必要だと思いますし、それから昨今で言うとやっぱり防災の部分、計画の中に一部入っていますけども、もっとクローズアップして、関空の話とか今回の台風とか色々ありましたけども、この計画を進めることによって今後起こり得る防災はもっとうだよってというようなことで、少し市民の方にそういうご理解をいただけるようなコンテンツをもう少し入れていただく。それから先ほどソフトの話もありましたけども、やっぱり駅前とか色々な団体が集まって色々なことをやるっていう取り組みは、やっぱりグランフロントさんなんかはゆかた祭りとかひまわり祭りということで、いろいろな街全体が一つのテーマで街全体を動かしているというようなこととか、渋谷のスクランブル交差点で盆踊りをやって4万人を集めたとか、そういったこともソフトとして今後我々も含めてですけども、進めていくべき案件かなと感じております。

以上です。

### ○会長

ありがとうございます。

### ○委員

皆様のご意見お聞きしてお考えになられていることというのは大体一緒なのかなと、お聞きしながら報告等聞かせていただいていたのですが、ちょっと議論戻ってしまいかもしれませんが、私としては一つの視点として神戸の街の玄関口というふうな表現をお使いになられているというところで、玄関口と言えば建物でいうとまさに玄関とい

うところに当たる中で、そこに来られた方というのはその家の奥というのももちろん興味を引くという視点もおありだと思います。これがいわゆる皆様がおっしゃられているソフトの充実ということに当たるのかもしれませんが、その立派な玄関口の奥に見える、その建物の奥というものに関して、どういう機関、どういう部署、あるいはどういう時間軸で並行して検討していくか。これは私の個人的な意見としては、その段階的にじゃあ奥も周辺整備していこうというものではなくて、やはり並行して進めるべきものなのかなというふうな考えは持っております。そういったことは私のご意見としてちょっと一言お伝えさせていただきたいと思います。

## ○会長

ありがとうございます。

## ○委員

まず、横断歩道橋の税関前の国道2号線がいつも邪魔するって言うのですが、南側に行く用事のあるときは皆行くのですよ。花火のときにはすごい人が国道2号線ちゃんと渡って行っているわけで、この横断歩道橋を作ったからと言って南に行く人が増えるわけじゃないので、南に何があるかということが重要なことになると思うのです。今度は住友不動産があのかの辺の再開発をやるということが発表になっていると思うのですが、そういうようなことの中で、とてもいいものを作ってもなかなか使ってくれないではないかなというふうにちょっと心配しますが、本当にもう要らないものかと言えばそんなことではないので、要るものなので、せっかくやったらいいものを作ってみるのも一つかなという、そんな感じをもちました。

## ○会長

ありがとうございます。そうしましたら、コメントいただけますでしょうか。

## ○委員

最後に資料4でいろいろ示された三宮をめぐるさまざまな動きですけども、正直言いまして目くるめくプロジェクトがというか、今後のクロススクエアにとっての基幹的なベースの事業が一斉に動き出しているなということで、すごいなっていうのがまず率直な感想ですけど、同時にこれのやっぱり最初も申し上げた、連携がどうなっているだろうということが見えないのですね。ばらばらにそれぞれの担当部局で担当の方が一生懸命おやりになっているのはよくわかるのだけでも、実はもうこの時点でエリアマネジメントが始まってないといけないと思うのですよ。実は。その視点がこの中に全部欠けているのですよ。要するに、企画調整じゃないけど総合調整みたいなところで、トータルで見るというようなことがないと、一つ一つの建物は個別案件で、例えば景観なら景観の審査はできると思いますけれども、総合調整というのはその1と1を合わせて3にするという作業ですから、それは今やらないとだめで、それはハードが行く前の、ソフトのエリアマネジメントが必

要だと思うのですね。誰がというわけでもありませんし、複数の人間でももちろんいいと思うのですが、ちょっとこれは何ていうのかな。トータルに見るって言うそのエリアマネジメントも誰が見るのかということも含めてそれもマネジメントだと思うのです。さあ、エリアマネジメントやりますよっていうのでエリアマネジメント始めるわけじゃなくって、この時点で既にエリアマネジメントが始まっているというのは、ここに出ていますのは全てパブリックスペースにかかわることですし、ここがどう先導していくかが今後の公益的施設であるとか民間の施設を一つ誘導していく手がかりになると思いますので、是非、先ほどコーディネーションポリシーという言葉がありましたけれども、どういう形で果たして進んでいくのかって私はちょっとやや不安です。たくさん動いているだけに、精一杯だと思うのですよ。よくわかるのです。よくわかるのですけども、ややそこに少しちょっと危惧をもちました。

以上、意見です。

## ○会長

ありがとうございます。

## ○委員

同じことの繰り返しになるかもしれませんが、最後3番目の現在の都心三宮の動きということでご説明いただいたことと、1番目の「えき≈まち空間」基本計画とどう関係しているのかというところが、市の中であるいは市民の中であるいは地域の中で経済界の中でどう共有されているのかなというのが、すごく気になりました。一つ一つにも問題はあるかとは思いますが、一個一個の問題はちょっと置いておいたとして、例えばさっきの歩道橋一つとっても、それはフラワーロードからクロススクエア、駅前につながっている、そういう流れの中であるものだと思いますし、そこを通じてウォーターフロントとつながる。先ほどウォーターフロントに魅力がなかったら人は渡らへんって。そのとおりだと思いますし、逆にそういったものをつなぐというパブリックスペースとしてのフラワーロードがどんな軸になっていくのかっていうのが、クロススクエアをどうつくっていくのかと直結している問題だと思うのです。また、ホールの話とか区役所の話が出ましたけれども、それはバスターミナルも含めて3つのホールができるというお話があったかと思います。それをつなぐのもやっぱりクロススクエアなのですよね。このクロススクエアの端にいるわけですよね。つまり、そこの広場に面してホールをつくるという見方ということもできるわけです。でも、そんな意識ほとんどゼロですよね。説明の中では。恐らく、クロススクエアを位置づけていくという中でも意識されていなかったのじゃないかと思うのですよね。3つのものをどうやって分担しながら1つのものとして使っていくかというのは、ホールにかかわる人たちにとってはとても大事なものとして議論されているっていう話もお聞きしていますし、そういったところにクロススクエアの広場的機能であったり、パブリッ

クスペース的機能だったり、そこにお店が出ていてホールが終わった後に使えてそれが次の小さい所とつながっているとか、そこで練習するとかですね、色々なつながりを1つの空間としてつくるということがパブリックスペースを整備するという大きな役割だと思うのです。もちろん機能的なこととか使い方もあるけれども、そういうふうにエリアをつないでいくときの手がかりとしてどうきちんと計画していくかということ。そういう意味で言えば、区役所は居留地の中に立つわけですね。居留地のルールとそれからその前にある2号館とフラワーロードとクロススクエア、これ全部つながっているわけです。じゃあそれをつなぐパブリックスペースって何なのだろうって考えると、低層部のつながり方とかは意識するべきだし、しなかったら公共としてつくる役割ないじゃないですか。民間なら仕方ないですよ。敷地ごとに収益考えていかなきゃいけないから、それはもう仕方がない。ある程度仕方がない。だけれども、その民間の人たちと一緒に三宮をつくっていききたいというならば、自らやっていただきたいと思います。

#### ○会長

ありがとうございました。今日は短時間だったのですがけれども、大変皆さん貴重なご意見をいただいたと思います。事務局のほうも是非とも計画ができましたけれども、本日のご意見を踏まえて計画を実現していただければと思っております。

そうしましたら、事務局のほうにお返しいたします。

#### ○都心三宮再整備課長

会長、委員の皆様、本日は大変貴重なご意見をいただきましてまことにありがとうございました。なお、本日お伺いできなかったご意見等につきましては、お手元に配付しております用紙にご記入の上、事務局宛てにファクスまたは記載のアドレスまでEメールをいただくなどの方法でお届けいただきますようお願いいたします。

それでは、最後に都心再整備本部都心再整備部長の中原よりご挨拶をさせていただきます。

## 4. 閉 会

#### ○都心再整備部長

部長の中原でございます。今日は貴重なご意見をたくさん頂戴いたしまして、誠にありがとうございます。全部お答えはできる時間もございませんでしたが、例えば我々この4月から都心再整備本部という組織になってございまして、冒頭ご挨拶した理事が本部長ということで着任しております。この意味は、いろいろな意味がございしますが、1つは我々が事業部隊だということも理事からもはっきり言われておりまして、今日のご意見の中でもそういうご指摘もあったかと思いますが、一層意欲を持って進めていくということで、

今日お集まりの皆さんとの連携も引き続きやっていくということでいきたいと思っております。それから、どうしても三宮の話が中心になってしましまして、そこばかりではないのかというご指摘があるのも当然のことだと思いますが、これはまさに今日皆さんのご議論にもありましたように、150万人都市の神戸三宮が玄関口だと。玄関口をきれいにするというので、我々はその仕事をやっているわけですが、玄関口だけをきれいにしてあとほったらかしということでは決してございません。三宮のことといたしましても元町の話もありますし、北野の話もありますし、新神戸の話もあります、ウォーターフロントの話もあります。たくさんのところとどうやってつながっていくか。そこでどうやって回遊性を高めていくかということが、もともとのこの構想の、非常に大きなコンセプトでもございますので、その点我々も忘れずに今後やっていきたいと思っております。いろいろなことがいよいよ動き出してきているということはお感じいただいたところでございますが、同時にそれがちゃんと一体的に進むのかというご心配もお感じいただいたところで、私どもその辺を十分に注意して、それぞれ今日は担当からご説明をしているのですが、当然その話の中には我々も当然入ってやっているところでございますので、今日いただきましたご意見を我々肝に銘じまして、これから進めていきたいと思っております。引き続きいろいろご支援、ご理解いただきましたらありがたいと思っております。どうも今日はありがとうございました。

#### ○都心三宮再整備課長

それでは、本日はこれもちまして閉会をいたします。次回の推進会議の開催につきましては、決定次第お知らせいたします。本日はどうもありがとうございました。